

若者の移行期支援に求められる専門性とそれを支える力量についての考察
ーユースワーカーが語る支援の形からー

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
発達・福祉臨床クラスター
横江 美佐子

若者の生きづらさが語られる今日、子どもから大人への移行途中にいる若者たちが、その過程で抱える課題や困難に対峙していくための支援が求められている。本研究では、子どもから大人への移行の過程にいる若者を取り巻く問題の軽減に向けて、とりわけ若者の社会的課題への対応として必要な支援とそれらを支える担い手の専門性や力量について明らかにすることを目的とした。そのために、若者の成長と移行を包括的に支援するユースワークに注目し、その実践の場に積み上げられた経験知に着目し、検討した。

研究協力者は、京都市内にある青少年施設に勤務する 10 年以上のキャリアを持つユースワーカー 3 名である。調査は、2011 年 2 月～10 月の期間に行い、半構造化面接にてデータを収集した。面接では、「ユースワーカーになるまでの経緯」「支援を行う時に大切にしていること」「支援の場面で生じる葛藤場面をどのように乗り越えているか」などのテーマを提示した。この面接を通して、実践の場で支援者たちが経験した具体的なエピソードを交えた語りを収集した。

語られた内容は、質的データ分析法によって分析を行い、その結果、35 のコードが導き出され、さらに 35 のコードを機能別に集約した 9 つのカテゴリーが生成された。これらから、(1) 若者の課題軽減にむけたアプローチは信頼関係の形成を基軸とした場によって行われている、(2) 支援者は、自らの力量を発展させる学びを実践の中で行っている、(3) 支援者は、実践を通して専門性のコアを支える考え方を身につけているという 3 点が明らかになった。

以上から、移行期支援の実践は、①信頼関係の形成をベースにしたさまざまな集団を活用した場で行われることが有効であると考えられること、②支援者の省察的な学びは、専門性を支えるために必要なプロセスであり、専門性を支える力量の一部として捉えられること、③支援者が実践の場において身につけている、実践的に問題を解決する考え方「実践に向かう考え方」が、移行期支援の専門性とこれからの支援の展開に示唆を与えること、という 3 点が示された。

若者からの視点で支援を捉えること、知識や技能などを含んだ支援者の力量を検討することが今後の課題である。そのために、移行期支援の利用経験のある若者を対象にした調査と、5 年未満のキャリアを持つ支援者を対象にした調査をする必要があるだろう。